

水道水と井戸水は本当に安全か

山田町長／健康への影響はない

渡辺

国は8月に「緊急時避難準備区域」解除の条件として復旧計画の策定を求めました。

計画の中では生活圏に多量に放出された放射性物質の詳細な線量測定や除染作業を急ぐほか、解除の大前提として暮らしの根幹をなす「水」は本当に安全なのかと心配する声もあることから、次の2項目について町長の考えを伺います。



渡辺 久長 議員

(1) 水源地の水質検査方法と結果について

(2) 飲み続けた場合の健康への影響について

町長

(1) 検査については、水道企業が福島県原子力センターへの委託によりゲルマニウム半導体検出器を使用し、2日に1回のペースで小滝平浄水場ろ過水の放射線検査を実施しています。

検査結果では3月下旬に行った3回の検査では、飲食物摂取制限以下の「ヨウ素131」が検出されましたが、その後の検査では放射性物質は検出されていません。

井戸水につきまして

も、4月19日に福島県が行った町内5ヶ所の検査の内、1ヶ所で放射性物質が検出されましたが、4月27日の再検査においては検出されませんでした。

(2) 健康への影響については、浅見川で処理された水道水は4月からすべての項目にお

いて放射性物質が検出されず、1歳児未満の乳児を含め、飲み続けると健康への影響は無いものと認識しています。



▲現在は小滝平浄水場から町内に配水されている

町内への仮設住宅建設はいつ頃か

山田町長／意向を踏まえ早急に対応

渡辺

町内では巨大地震や大津波

で多くの家屋が倒壊、流失していますが、政府は町が作成する復旧計画にもとづき、近々に当町の緊急地避難準備区域の解除を検討しています。

今後、津波等の被災者を支援し、町へ帰還する観点から、次の2項目について町長の考えを伺います。

(1) 流失・倒壊・半壊等の家屋数について

(2) 被災者用の町内仮設等整備について

町長

(1) 現時点では、津波・

地震により被害を受けた世帯数は全壊世帯110件、大規模半壊21件、半壊世帯88件です。(2) 復旧計画に盛り込み、県に建設を要請しています。

建設時期は、被災者に対し意向調査を実施し、その結果を踏まえて建設戸数等を決定し、建設します。